

ビジネスシーンで役立つ極意(第5回)

事業変革のドライバー。解説・クラウド導入の勝ちパターン

2023.03.10

企業のビジネスにおいて、クラウドは欠かせない存在になりつつある。ただ、第一歩が踏み出せない企業、セキュリティリスクが気になるという企業もあるだろう。今回は、クラウドへの移行あるいは導入に向けた注意点などを考えてみたい。クラウドを活用してDXや事業成長を実現する上で押さえておきたいポイントについて、Publickeyブログで知られるITジャーナリストの新野淳一氏に聞いた。

中堅・中小企業のクラウド化は遅れ気味

――現在、ほとんどの企業が何らかの形でクラウドサービスを利用していると思います。その普及の歴史を振り返って、節目になるような出来事がありましたか。

まず思い浮かぶのは2011年3月、AWSの東京リージョンが開設されたことです。サービスが始まった1週間ほど後に、東日本大震災が発生しました。地震や津波でサーバーが壊れたケースも多かっただけに、災害に強いクラウドが注目されました。

2010年代半ばにはマイクロソフトが国内データセンターから、「Office 365(現・Microsoft 365)」のサブスクリプションサービスを開始しました。多くのパソコンユーザーになじみのあるアプリケーションだけに、ビジネスシーンにおいてもクラウドの認知度は大きく高まったように思います。その頃からでしょうか、大企業の間でも「クラウドファースト」がキーワードになりました。例えば、新たにシステムを構築するとき、オンプレミスではなく、クラウドを第一の選択肢にするという意味です。今では企業が何らかのシステムを検討するとき、クラウドは少なくとも選択肢の1つに入っているはずです。

――企業の規模などにより、クラウドの普及度合いには違いがあるでしょうか。



さまざまな調査を見ると、大企業とスタートアップに積極的な企業が多いようです。大企業はIT部門にも多くの人材がいますし、比較的余裕があることもあってか、クラウドを用いてチャレンジするケースをよく見ます。スタートアップは、ある意味では当然でしょう。デジタルに詳しい人材が多いことに加え、人事や会計などの仕組みを自前でイチからつくるよりも、クラウドサービスを活用したほうが合理的です。

その中間ともいえる中堅・中小企業のクラウド活用はあまり進んでいません。今後は、クラウドの多様なメリットを考えると、こうした企業も本格的なクラウドシフトが進むことになると思います。

クラウドの設定ミスには要注意… 続きを読む